

第16回全日本ユース(U-16)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2023/12/26】

この試合のプレー集計

男子5-7戦1

京都府選抜

0	—	5
5	—	3
2	—	2
3	—	2

12 山口県選抜

PSO

宇田川佑里子

審判:

原 汐音

京都府選抜	29	SH数	25	山口県選抜
	2	速攻数	5	
	6	ST・SB	12	
	8	SH・P誘発アシスト	3	
	40%	GK阻止率	47%	
	7	EX反則数	3	

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

前回チャンピオンの京都だが、今大会はミスが目立って上位進出が果たせず、この敗者戦で少しでも上位進出を狙う。対する山口は埼玉との壮絶な準々決勝からどこまで疲労回復して試合に臨めるか。本日2試合目ということで、選手たちのコンディショニングも試合を左右する要因だ。

【1P】

ゲーム序盤から京都にミスが続出。今大会の京都を象徴するような立ち上がりで、そのミスを突いて山口が先制。その後も京都のミスは続き、ペナルティを含み、このピリオド、京都0-5山口とやや一方的な展開で第1ピリオド終了。京都は7分で3本しかシュートを放つことができず、そのうちの2本は山口GK①清角にブロックされており、それだけ最終ラインまでの攻撃に至っておらず、攻撃途中でのミスが目立った第1ピリオドだった。山口としては激戦の埼玉戦の後だけに、そうした相手のミスで得点できたことは省エネの意味で助かった形だ。

【2P】

センターボールからの攻撃で京都④渡邊がセンターSHで1点を取り返すが、すかさず山口⑦濱川が決めて5点差のまま。さらに右サイドを抜けた⑧井上が7点目を決めて主導権は山口に。京都は退水攻撃で⑤植村が決めて2点目を取り、さらに山口のシュートミスから攻め上がって、④渡邊がセンターSHで点差を詰めてきた。さらに右サイドをゴール前まで詰めた⑧宇津木が決めて3連続得点。さらに③園が右ポスト前でディフェンスをかわして得点。一気に京都が追いつく展開となった(京都5-7山口)。山口の攻撃は最終ラインでミスが多く、なかなか機能しなかったが、ピリオド終了直前に⑦濱川がミドルレンジから決めて、ようやく京都の流れを止めて第2ピリオド終了(京都5-8山口)。特に山口は初戦の激戦の疲れがあるようで、ディフェンスも甘く、攻撃にも精彩を欠く展開となってしまった。後半、どこまで体力が持つかやや心配な状況だ。その意味では、京都の第1ピリオドのミスが残念であった。

【3P】

双方ややミスが目立って長いラリーとなったが、山口⑦濱川がボールを奪って⑧井上がゴールに詰めて、山口がこのピリオド、最初の得点をあげる。その後も⑧井上がゴール前まで詰めて、ダブルマークされながらも粘ってゴールを決めて、山口が京都を突き放す。京都は⑤植村が1点を取り返し、さらにセンターで⑥木村がダブルマークに負けずに決めて再び3点差に戻して第3ピリオド終了(京都7-10山口)。

【4P】

約2分間のラリーの末、京都が退水攻撃時のタイムアウトから粘って⑩前川が決めて点差を詰めてきた。この場面、オーバータイム寸前だったことで山口GK①清角がチームに前に出るような指示で、一瞬シューターから目を切ったことでゴールが決まった形。次の山口の退水攻撃はタイムアウトも実らず、逆に京都が④渡邊が決めて2点差と射程圏内に戻ってきた。残り時間2分で京都が退水を誘発して勝負をかけるが失敗。しかし残り時間1分での退水攻撃を決めて1点差。懸命に京都が攻めるが山口GK①清角が果敢な飛び出してボールを奪うと、右展開中に山口エースの⑦濱川がロングドライブでゴールに迫り、そこでペナルティを誘発して勝負を決定づけた(残り時間7秒)。

第1ピリオド以外は、内容および点数で京都が山口を上回っており、山口は埼玉戦の影響を引きずった形だけだけに、返す返すも京都の立ち上がりが残念であった。